

横浜の企業がザンビアの橋梁の長寿命化へ貢献

エポキシ接着剤による橋梁補修の技術移転を目指し、2019年4月から調査開始

国際協力機構(JICA)は、「中小企業海外展開支援事業～基礎調査～」として2018年に採択したアルファ工業株式会社(神奈川県横浜市、大井川幸彦代表取締役)の「エポキシ樹脂を活用した橋梁補修に関する基礎調査」(ザンビア)について、4月から現地調査を開始します。

ザンビアは南部アフリカの8つの国に囲まれた内陸国で、貨物輸送の大半が道路・橋梁を通じて行われており、460以上の橋梁が存在します。1970年以前に建設された橋梁も多く、コンクリートの損傷や摩耗が激しいのが現状です。交通の安全性と輸送効率を高めるためには、橋梁の定期的な維持管理が必要とされており、近年、ザンビア道路開発庁(Road Development Agency: RDA)は、同庁内に橋梁維持課を設置するなどし、橋梁の維持管理に取り組んでいます(JICAは2015年から2017年にかけて「橋梁維持管理能力向上プロジェクト」を実施し、体系的な維持管理能力の習得に協力しました。2019年から同プロジェクトフェーズIIを実施予定です)。



損傷しているザンビア「アルファテック 380」によるひび割れ補修。天井面でも塗布が可能
の Muwanbashi Bridge

一般的にコンクリートの耐久年数は約50年と言われており、ひび割れからの水分侵入や空気中の二酸化炭素の侵入により耐久年数が短くなるため、発生したひび割れを早期に補修することが必要です。アルファ工業株式会社の塗布型・浸透エポキシ接着剤「アルファテック 380」は、微細なコンクリートのひび割れ補修のために開発された製品です。補修が難しい微細なひび割れには、注入器を使用し接着剤を注入する工法が一般的ですが、「アルファテック 380」は、ローラーで塗布するだけで、壁面でも天井面でも浸透接着できる特徴を持っており、このため従来工法と比較すると作業効率が大幅にアップし、工期も短縮でき、コスト削減も期待できます。

4月から開始するザンビアでの現地調査では、橋梁損傷の実態、RDAの補修計画、現地代理店との連携可能性や市場の動向、製品導入に関する規制やビジネス環境等を確認し、事業の実現を目指します。

【本件に関する問い合わせ先】

JICA 横浜 総務課 中小企業・SDGs ビジネス支援事業担当：池上、増田

TEL : 045-663-3252 e-mail : yictad@jica.go.jp